

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900702
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホーム コスモス
所在地	愛媛県宇和島市三間町黒川385-1
自己評価作成日	平成28年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの利用者が、その能力に応じて自立ができるよう、職員が利用者の立場に立って、その笑顔をすこしでも引き出すことのできるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の創設者は「仲間と一緒に暮らせる場所」としてここを立ち上げている。現在の管理者はその思いを継続、実現しようと毎日、試行錯誤をしているが、「思い」と「制度」に狭間に苦勞しているようだ。ただ職員達も創設者の思いに共感してここで働いているようで、利用者との精神的な距離を近づけようと、寄り添ったケアを心掛けている。管理者は、福祉現場でできること、また、しなければならないこと、そして医療での業務を明確にし、利用者や家族等に伝えている。いわゆる事業所で生活できる利用者の状態である。ずっと支援はしたいが利用者のQOLを第一に考え、福祉と医療の線引きをはっきりさせている。できないことをできないと伝えることは難しいが、それを明確にしている管理者には、専門性の高さが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームコスモス

(ユニット名) こすもす棟

記入者(管理者)

氏名 入川一仁

評価完了日 平成 28年 11月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者及び職員は、「自立を促し、笑顔で接し、地域と暮らす」の介護理念のもと、それを理解し、日々の介護の実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念は高齢者介護を端的に表しており、ルーチン化しやすい日常業務を初心に戻す役割がある。職員に「自立を促すとは」と質問したところ、「利用者それぞれに自立が異なっており、自分ですることだったり、自分で決めることだったり、私たちの手を借りることも自立です。目的は人生を楽しむこと」と満点の返事が返ってきた。職員間あるいは管理者と、理念について、いかに話しを積み重ねているかが分かる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の自治会に加入し、春の花見、秋の観月会などその活動に積極的に参加し、季節毎に野菜の差し入れを頂くこともある。また、地元の小学校児童との交流会等による相互交流も行っている。</p> <p>(外部評価) 山間の道沿いに小さな集落があり、そこから少し離れた場所に事業所がある。そのため地域との付き合いは「お隣さん」と言う関係は難しく、行事を通しての交流が主である。また、地域自体が過疎高齢化の波が押し寄せているため、行事も頻繁に行われている訳ではない。そこで、事業所が準備している別棟の多目的スペースが有用で、地域集会だけでなく寄り合いやカラオケ大会等も行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 自治会の会合や運営推進会議での自治会長や民生委員・消防団との連携、「生き生き教室」での介護予防の啓発活動等により、認知症についての理解と支援を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 施設での活動状況や利用者の現状報告、さらには介護を取り 巻く環境の変化など、問題点および改善点について広範な意 見を得て、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 事業所では、市が取決めをした報告書の様式通りに運営推進 会議を開催している。事業所の利用状況、利用者の状態、活 動状況等を参加委員に報告し、意見等を聞いている。事業所 の報告で特筆すべき点はヒヤリハットの細やかさである。事 業運営を包み隠さず報告し、それに対する意見に耳を傾けて いることが、議事録の記載内容で理解できる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 常にコンプライアンスの順守に努め、業務上での疑念が生じ た場合には、行政の担当部局に対し意見と協力を仰ぎ、適切 な介護サービスの実践を目指している。	
			(外部評価) 事業所は車で5分も走れば他町になるので、距離的には市役 所と離れている。市担当者と直接会うのは運営推進会議にな るため、頻繁に電話での相談を行っている。市内にはグルー プホームが13カ所で、行政とは顔が見える関係がどの事業 所とも取れる理想的な数であると言える。運営推進会議の報 告書の様式等も行政が取りまとめており、事業所負担を減ら そうと、福祉現場に理解がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の意向を最大限尊重し、外出の要望があれば職員が同 行し、安全を第一に散歩等を行っている。また、管理者及び 全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解し把握している。	
			(外部評価) 事業所の創設者は、高齢者を介護するというより、仲間と一 緒に住む場所を作りたかったようである。そんな思いの事業 所だけに身体拘束ゼロを目指しているのは当然なのだが、不 穏な利用者が飛び出す場合のみ玄関にテンキーの施錠システ ムを作動させている。山間に事業者があるため利用者が山に 紛れ込んだら大変な事故を招くことがあるからだ。利用者の 命と施錠のジレンマにさいなまれながらも、いざという時ま ではシステムを作動させない介護を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者及び職員は、身体的虐待はもちろん言葉によつての虐待が見過ごされることがないように、職員会議やミーティングを通じて、常に注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する制度について理解しようと努力している。特に、今後独居の高齢者の増加が見込まれることから、身寄りのない認知症高齢者に対する後見制度の必要性について痛感している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結・解除の時点で、利用者および家族に対し十分な説明を行い、理解を得、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者及びその家族の意見を常に聞く機会を設け、運営推進会議や家族総会の場で意見を求めて協議し、運営に反映している。家族が来訪される、面会の他通院や支払い時、電話による要望についても、誠意をもって対応している。 (外部評価) 事業所での生活が長くなると、家族も利用者の状態を分かっているとは言えず、不安があるものである。事業所ではその状況をなくしたいと、家族便り」を毎月送っている。利用者の近況を伝え利用者の「包み隠さない今」が書かれている。食欲や睡眠の状態だけでなく、不穏や暴言の有無、利用者同士のいさかい等、その人となりをありのまま書いている。家族側にとっては「今の本人」を知ることで意見も出しやすくなり、真摯な取組みとして高く評価できる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1日に開催する、職員会議にはほぼすべての職員が出席しており、その他、毎朝のミーティング等によって、運営に関する個々の意見や提案を効く機会を設け、反映している。	
			(外部評価) 管理者は職員からの生え抜きであるため、職員の状況を良く把握している。職員にはキャリアがある人も少なくないため、管理者と職員の目線は等しく、利用者のケアも共に従事している雰囲気があり、関係は良好である。訪問時に話を聞いていると、古参の職員は気安く喋ってはいるが、管理者には一目置いていることが理解できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や個々の職員の職務への取り組み姿勢や努力について常に把握し、各自が向上心をもって介護業務が行えるよう環境と条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種団体主催の研修や講習への参加、施設へ講師を招いての勉強会等、機会をとらえて介護スキルの向上を目指している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会や福祉施設交流会等に参加し、交流と情報交換に努めて、施設のサービスの向上を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、利用者本人と家族・後見人の意見や要望を聞き、利用者が安心できる環境で健康に暮らすことができるよう、信頼関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、家族・後見人の要望に最大限の配慮し、利用者の意向と施設の対応について納得頂けるよう説明し、信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、家族構成、生活環境、職歴や病歴の情報、家族の要望等可能な限りの情報を把握し、本人が今必要としている支援を見極めた上で実践している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除や洗濯、食事の準備や片づけ等、利用者と職員が協力し、個々の能力に応じた作業を行うことで、自立と共生を図り、介護を受ける立場ではなく、暮らしの中で自身が必要とされている存在であることを理解していただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との絆を常に念頭に置き、利用者と家族とが触れ合うことができる機会をできるだけ設け、双方の意見や要望の実現に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、利用者の生活歴や家庭環境を詳細に把握し、本人が親しくしていて交流のある方々との連絡を促し、訪問や面談の機会をつくることに努めている。また、他の利用者との交流を進めるためゲームや歌の会を合同で実施し、親睦を深めている。 (外部評価) 事業所は運営を始めて10年目を迎えているため、利用者それぞれの入居期間には長短がある。そのため馴染みの関係は利用者によって異なり、また、時間と共に変化していくものだ与管理者は考えている。自宅での馴染みを支援するべき人、ここでの生活を馴染みの場とする人、年齢退行で子どもの時の関係性を復元すべき人等、まず利用者を見ることを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者の性格や嗜好を正確に把握し、孤立することの無いよう配慮しながら、充実した共同生活を送ることを目指した環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設や医療施設に移るなど、サービスの利用が終了した場合であっても、関係機関や家族を通じて情報を収集し、必要に応じて相談や支援することに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者本位のケアを実践するため、個々の利用者への理解が必要であることを職員間で共有し、希望や意向のくみ取りが困難な利用者であっても、表情や態度などからそれを把握するよう努めている。 (外部評価) この地域の優しい言いまわしは独特のもので、それを自然に使っている事業所内では、利用者は安心して会話している。「どちらでもいい」と利用者が言っても「でもどちらが好き？」と職員が聞き返している。笑顔で利用者が応えているのは、馴染んだ言葉の雰囲気も大きな役割を果たしている。思いや意向を把握するには、本人が選択する支援が必要で、選択するためには安心した環境が求められる。利用者がより多く安心するために、親しみやすい言葉遣いで接しているケアは評価できる。	職員の定着率の良い事業所であるので、利用者理解はどの職員もできている。それはミーティングでの情報交換の積み重ねであるが、新しい職員が入って来た場合と、利用者の状況を理解する資料はアセスメント記録だけである。今まで知り得た利用者の状況は介護記録に記載しているが、古い記録は確認することが難しい。従って口頭で伝えて行く他に方法がなく、時間も要するので、利用者の理解を深めるためにも記録としてうまく整理していくことを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、利用者の家族環境、生活歴、職歴、他施設の利用歴などの情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員会議やミーティング、日々の申送りにより、ひとり一人の状況の把握に努めるとともに、協議した結果をケアプランに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人にとってより良い暮らしの実現のため、本人、家族、職員、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、その人の抱える課題の解決に向けた適切な介護計画を作成している。 (外部評価) 介護計画は利用者毎の担当職員がプランの素案を作り、全職員で話し合われている。また利用者全員を全職員が理解するため、担当は3か月毎に交代をしている。ミーティングでまとまった計画は、ケアマネが介護計画の書類にしている。モニタリングは毎月介護計画に沿って評価をし、介護計画の見直しに役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の利用者毎に、日々の出来事をできるだけ詳細に記録し、ケアの実践とその結果、工夫したこと等の情報を職員間で共有し、より良い支援となるよう随時介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状態の変化、家族の事情などそれぞれのニーズに応じ、前例や固定観念に捉われないよう、臨機応変なサービスや支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の自治会活動や祭礼などに参加し、四季折々の自然環境や、季節毎の催しなど、他者と触れ合う機会を持ちながら、豊かな暮らしができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 第一には本人及び家族の希望を尊重しており、契約した嘱託 医との緊密な協力関係のもと、安心できる体制を整えてい る。さらには必要に応じて総合病院との連携もとりながら、 常に適切な医療が受けられるよう支援している。 (外部評価) 多くの利用者が協力病院がかかりつけ医である。事業所が山 間にあるため往診が難しいため、受診介助を主に職員が行っ ている。家族等にとっては嬉しいサービスの一つになっている。 また「何かあっては大変ですから」と救急車への連絡体 制は万全で、利用者の安心感に繋がっている。単独の事業所 だけに他の機関との連携は堅固で、気を配っていることが分 かる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員が、日々の支援の中でとらえた気づきや疑問など を、随時看護職員に伝え、利用者が適切な受診や看護を受け ることができるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 常に医療機関との連携をとることに努め、利用者が診療を受 けたり、入院が必要が生じた場合に、適切な治療により速や かに施設に帰ることができるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 日常の利用者家族との交流に加えて、家族総会や運営推進会 議等を通じ、体調急変時の対応や状態が重度化した場合の施 設の方針について逐一説明し納得してもらっており、事業所 でできることと困難なことについて理解してもらおうよう努め ている。 (外部評価) 管理者は、この事業所で生活するには医療行為が必要ないこ と、口から食事が取れることの2つの要件を、入居時に利用 者や家族等に話しをしている。なるべくここで生活がしたい と言うのが多くの利用者の思いであるが、事業所でできるこ とと難しいことを管理者は識別している。難しいことは難し いと家族等にはっきり伝えており、介護職としての専門性の 高さを感じる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急や防火・防災訓練を開催し、全ての職員が、万が一の事態での応急処置や初期対応に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議や自治会との交流を通じて、地域の消防団などとの連携を図り、万一の際の避難の手順や地域との協力体制について、全職員に対し周知徹底している。 (外部評価) 災害時の避難訓練は、事業所の年間スケジュールに組み込まれ、年2回、消防署職員から直接の指導を受けている。夜間職員一人で利用者全員の避難を誘導するには、やはり不安があるので、訓練にはつつい熱が入ると職員は言う。事業所の廊下にヘルメットが掛かっており、普段から避難に注意していることが分かる。平屋で玄関以外にもリビングや廊下の突き当たり等複数の避難路を設け、安心感の高い事業所である。	避難訓練が終わった後、消防署職員と反省会を兼ねて利用者とのお茶会を催してはどうだろうか。目的は消防署職員に利用者理解を深めてもらうことにある。訓練では職員が利用者を誘導するため、同じ現場に居ながらも消防署職員は利用者とは話す機会が少ない。しかし有事の際には直接利用者と関わり、より安全に誘導するには利用者を知ることは重要である。また、利用者を通して認知症理解も深まると思われるので、事業所としての取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者ひとり一人の尊厳に配慮し、人格とプライバシーを常に尊重している。声掛けや誘導の際の言葉遣いでも親しさの中に尊敬の念を込めるよう心掛けている。 (外部評価) 食事の時に不機嫌な利用者がいた。食べ始めるまで時間を要したが、ゆっくりした口調でそれに職員が寄り添っていた。それが認知症の介護と言えればそれまでだが、その丁寧さには頭が下がり、普段からのこうした関わりの基本は、利用者一人ひとりの尊重であると感じた。言葉にするのは容易であるが、実行には忍耐と優しさが必要であり、それを再確認した場面であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が自主的に意志を表現し行動できるよう、可能な限り自己決定を優先できるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者ひとり一人の能力や生活リズムを優先し、それぞれの希望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者全員が女性であり、要望があればその人らしいおしゃれや身だしなみができるよう配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 介護度の進行とともに、利用者が準備を行うことが困難になりつつあるが、個々の能力に応じた、食器拭きや片づけ等、利用者と職員が可能な限り協力している。	
			(外部評価) 利用者の重度化から準備や後片付けができる人は少なくなっているものの、訪問日は一人の利用者がずっと立ち後片付けを始める姿を見ることができた。その自然な動きで、後片付けは彼女の日常に組み込まれていることが分かる。食事中、職員は介助しながら他の利用者にも目配せ、声かけと忙しくしているが、口調は穏やかであった。食事が利用者にとって楽しい時間であるように関わっていることが理解できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 地元の農家からの差し入れなどもあって、旬の新鮮な野菜を中心とする、栄養バランスに配慮した食事を提供している。10時と3時にはおやつに加えて利用者の嗜好に沿ったコーヒーや紅茶、日本茶による水分の補給に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアはもちろん、個々の利用者毎の口腔の状態に留意し、必要に応じて歯科医の受診や往診を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の意志を伝えることが困難な利用者、特に夜間は排泄リズムに応じて声掛けしてトイレに誘導している。また、朝食後にはトイレに座ることで排泄を促すようにしている。	
			(外部評価) 職員は昼間はトイレで排泄するよう支援しているが、夜間は利用者によっては睡眠を優先するために紙おむつやパットも活用している。それでも起きて来てトイレに行こうとする人には、「夜間何回も行くので、ゆっくり寝るために工夫をしても、やっぱり行きたいという要望は叶えたい」と職員が寄り添って支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜中心の食事と、各種運動の実施により利用者に応じた対応を取っている。それでも便秘になる場合は「マグミット錠」などを嘱託医の処方のもとに服用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者本人の意思と判断のもと、身体の状態を鑑みて入浴を支援している。苦手な利用者に対しては、その必要性と効果を根気よく説明し、納得の上入浴を促している。	
			(外部評価) 入浴は2日に1回を基本にしているが、天候や本人の体調等にも配慮し臨機応変に対応している。職員は、入浴は体を清潔に保つ以外に、皮膚等の専門的な観察と利用者へのリラックス時間の提供でも考えている。特に利用者との雑談時間は大切に考えており、「つい長くなることもあります」と職員は笑う。利用者が愚痴を言うのも大事と、心身ともにリフレッシュできる入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居前の個々の生活リズムは尊重するが、健康で安心な暮らしのためには改めるべきことは改め、適切な活動と休息・睡眠が必要であることを念頭に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの利用者が服用している薬の効能や副作用、用法について、処方箋の内容を把握し、疑義が生じた場合には医療機関に指示を仰いでいる。また、情報の収集に努めて利用者毎の状態の変化に対応できるよう図っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の個性や嗜好を把握し、その人の能力に合った役割を持ってもらい、生活の上での喜びや達成感を得ていただいている。趣味や嗜好に沿った気分転換についてもそれぞれの個性を尊重している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 酷暑や厳寒、荒天時を除いて外出の機会を設けるよう努めている。車酔いやトイレの不安を訴える利用者もおられるため、近所への散歩や日光浴となる場合もあり、それぞれの意向を踏まえた支援をしている。 (外部評価) 事業所には大型のワゴン車があり、それで年に数回遠出をしている。しかし、回数が限られているので、普段は庭に出て外気浴をしている。気候が良いと近くの集落まで散歩しているが、利用者が山道に入ってしまうと迷う危険性があり、職員の見守りが重要になっている。また夏場でも日暮れが早いので、空の様子を見ながら外出するなど、外出一つも他の事業所にはない苦労がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者本人で管理が不可能である場合を除いて、本人の意思を尊重しており、買い物など楽しみにつながるような支援を心掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の家族や親類、友人など、本人の希望に応じて電話の取次ぎ、手紙のやり取りなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) すべての共用の空間において、機能的であることに優先して衛生的であることを優先し、住環境に配慮している。また、掲示物等にも季節感を感じられるものを採り入れ、心地よく過ごすことができるよう演出している。</p> <p>(外部評価) 事業所は、リビングとダイニングとが分れ、くつろぎと食事スペースを使い分けている。廊下との間にも仕切りがなく、視覚的に広がりがある造りである。リビングの大きな窓と廊下の突き当たりの窓が風の通り道になっており、建物全体の通気が良い。2つのユニットを真っ直ぐ貫いている長い廊下は、利用者の機能訓練にも活かされている。別ユニットの利用者が頭を下げながら歩いており、社交の場にもなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 会話好きで社交的な利用者、静かに他者の話を聞く利用者、それぞれの個性を生かすことができるように、食堂、和室、居室にと、利用者が思い思いに自由に行動できるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 備え付けのタンス以外は自由に配置を変えることが可能で、仏壇や写真、思い出の品などを持ち込んでもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室は利用者によって家具等持ち込む物に違いはあるが、どの部屋も自分の場所という居心地の良さが感じられる。ベッドと整理ダンスが備え付けなので、身の回り品だけを持ってきている利用者の部屋も寂しさはない。ほとんどの利用者が寝るとき以外は部屋に居らず、事業所全体が自分の家のように使っている状態は、自宅でくつろいでいる雰囲気である。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) それぞれの利用者の能力に応じて、それを把握し、本人にとって適切な、体操や娯楽、身体機能の維持のための運動等を通じて、安全でできるだけ自立した生活が送れるよう工夫しながら支援している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900702
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホーム コスモス
所在地	愛媛県宇和島市三間町黒川385-1
自己評価作成日	平成28年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの利用者が、その能力に応じて自立ができるよう、職員が利用者の立場に立って、その笑顔をすこしでも引き出すことのできるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の創設者は「仲間と一緒に暮らせる場所」としてここを立ち上げている。現在の管理者はその思いを継続、実現しようと毎日、試行錯誤をしているが、「思い」と「制度」に狭間に苦勞しているようだ。ただ職員達も創設者の思いに共感してここで働いているようで、利用者との精神的な距離を近づけようと、寄り添ったケアを心掛けている。管理者は、福祉現場でできること、また、しなければならないこと、そして医療での業務を明確にし、利用者や家族等に伝えている。いわゆる事業所で生活できる利用者の状態である。ずっと支援はしたいが利用者のQOLを第一に考え、福祉と医療の線引きをはっきりさせている。できないことをできないと伝えることは難しいが、それを明確にしている管理者には、専門性の高さが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームコスモス

(ユニット名) こでまり棟

記入者(管理者)
氏名 入川一仁

評価完了日 平成 28年 11月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者及び職員は、「自立を促し、笑顔で接し、地域と暮らす」の介護理念のもと、それを理解し、日々の介護の実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念は高齢者介護を端的に表しており、ルーチン化しやすい日常業務を初心に戻す役割がある。職員に「自立を促すとは」と質問したところ、「利用者それぞれに自立が異なっており、自分ですることだったり、自分で決めることだったり、私たちの手を借りることも自立です。目的は人生を楽しむこと」と満点の返事が返ってきた。職員間あるいは管理者と、理念について、いかに話しを積み重ねているかが分かる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の自治会に加入し、春の花見、秋の観月会などその活動に積極的に参加し、季節毎に野菜の差し入れを頂くこともある。また、地元の小学校児童との交流会等による相互交流も行っている。</p> <p>(外部評価) 山間の道沿いに小さな集落があり、そこから少し離れた場所に事業所がある。そのため地域との付き合いは「お隣さん」と言う関係は難しく、行事を通しての交流が主である。また、地域自体が過疎高齢化の波が押し寄せているため、行事も頻繁に行われている訳ではない。そこで、事業所が準備している別棟の多目的スペースが有用で、地域集会だけでなく寄り合いやカラオケ大会等も行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 自治会の会合や運営推進会議での自治会長や民生委員・消防団との連携、「生き生き教室」での介護予防の啓発活動等により、認知症についての理解と支援を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 施設での活動状況や利用者の現状報告、さらには介護を取り巻く環境の変化など、問題点および改善点について広範な意見を得て、サービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 事業所では、市が取決めをした報告書の様式通りに運営推進会議を開催している。事業所の利用状況、利用者の状態、活動状況等を参加委員に報告し、意見等を聞いている。事業所の報告で特筆すべき点はヒヤリハットの細やかさである。事業運営を包み隠さず報告し、それに対する意見に耳を傾けていることが、議事録の記載内容で理解できる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 常にコンプライアンスの順守に努め、業務上での疑念が生じた場合には、行政の担当部局に対し意見と協力を仰ぎ、適切な介護サービスの実践を目指している。	
			(外部評価) 事業所は車で5分も走れば他町になるので、距離的には市役所と離れている。市担当者と直接会うのは運営推進会議になるため、頻繁に電話での相談を行っている。市内にはグループホームが13カ所で、行政とは顔が見える関係がどの事業所とも取れる理想的な数であると言える。運営推進会議の報告書の様式等も行政が取りまとめており、事業所負担を減らそうと、福祉現場に理解がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の意向を最大限尊重し、外出の要望があれば職員が同行し、安全を第一に散歩等を行っている。また、管理者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し把握している。	
			(外部評価) 事業所の創設者は、高齢者を介護するというより、仲間と一緒に住む場所を作りたかったようである。そんな思いの事業所だけに身体拘束ゼロを目指しているのは当然なのだが、不穏な利用者が飛び出す場合のみ玄関にテンキーの施錠システムを作動させている。山間に事業者があるため利用者が山に紛れ込んだら大変な事故を招くことがあるからだ。利用者の命と施錠のジレンマにさいなまれながらも、いざという時まではシステムを作動させない介護を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者及び職員は、身体的虐待はもちろん言葉によつての虐待が見過ごされることがないように、職員会議やミーティングを通じて、常に注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する制度について理解しようと努力している。特に、今後独居の高齢者の増加が見込まれることから、身寄りのない認知症高齢者に対する後見制度の必要性について痛感している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結・解除の時点で、利用者および家族に対し十分な説明を行い、理解を得、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者及びその家族の意見を常に聞く機会を設け、運営推進会議や家族総会の場で意見を求めて協議し、運営に反映している。家族が来訪される、面会の他通院や支払い時、電話による要望についても、誠意をもって対応している。	
			(外部評価) 事業所での生活が長くなると、家族も利用者の状態を分かっているとは言えず、不安があるものである。事業所ではその状況をなくしたいと、家族便り」を毎月送っている。利用者の近況を伝え利用者の「包み隠さない今」が書かれている。食欲や睡眠の状態だけでなく、不穏や暴言の有無、利用者同士のいさかい等、その人となりやありのまま書いている。家族側にとっては「今の本人」を知ることによって意見も出しやすくなり、真摯な取組みとして高く評価できる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1日に開催する、職員会議にはほぼすべての職員が出席しており、その他、毎朝のミーティング等によって、運営に関する個々の意見や提案を効く機会を設け、反映している。 (外部評価) 管理者は職員からの生え抜きであるため、職員の状況を良く把握している。職員にはキャリアがある人も少なくないため、管理者と職員の目線は等しく、利用者のケアも共に従事している雰囲気があり、関係は良好である。訪問時に話を聞いていると、古参の職員は気安く喋ってはいるが、管理者には一目置いていることが理解できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、管理者や個々の職員の職務への取り組む姿勢や努力について常に把握し、各自が向上心をもって介護業務が行えるよう環境と条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種団体主催の研修や講習への参加、施設へ講師を招いての勉強会等、機会をとらえて介護スキルの向上を目指している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会や福祉施設交流会等に参加し、交流と情報交換に努めて、施設のサービスの向上を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、利用者本人と家族・後見人の意見や要望を聞き、利用者が安心できる環境で健康に暮らすことができるよう、信頼関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、家族・後見人の要望に最大限の配慮し、利用者の意向と施設の対応について納得頂けるよう説明し、信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、家族構成、生活環境、職歴や病歴の情報、家族の要望等可能な限りの情報を把握し、本人が今必要としている支援を見極めた上で実践している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除や洗濯、食事の準備や片づけ等、利用者と職員が協力し、個々の能力に応じた作業を行うことで、自立と共生を図り、介護を受ける立場ではなく、暮らしの中で自身が必要とされている存在であることを理解していただいている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との絆を常に念頭に置き、利用者と家族とが触れ合うことができる機会をできるだけ設け、双方の意見や要望の実現に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、利用者の生活歴や家庭環境を詳細に把握し、本人が親しくしていて交流のある方々との連絡を促し、訪問や面談の機会をつくることに努めている。また、他の利用者との交流を進めるためゲームや歌の会を合同で実施し、親睦を深めている。	
			(外部評価) 事業所は運営を始めて10年目を迎えているため、利用者それぞれの入居期間には長短がある。そのため馴染みの関係は利用者によって異なり、また、時間と共に変化していくものと管理者は考えている。自宅での馴染みを支援すべき人、ここでの生活を馴染みの場とする人、年齢退行で子どもの時の関係性を復元すべき人等、まず利用者を見ることを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者の性格や嗜好を正確に把握し、孤立することの無いよう配慮しながら、充実した共同生活を送ることを目指した環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設や医療施設に移るなど、サービスの利用が終了した場合であっても、関係機関や家族を通じて情報を収集し、必要に応じて相談や支援することに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者本位のケアを実践するため、個々の利用者への理解が必要であることを職員間で共有し、希望や意向のくみ取りが困難な利用者であっても、表情や態度などからそれを把握するよう努めている。 (外部評価) この地域の優しい言いまわしは独特のもので、それを自然に使っている事業所内では、利用者は安心して会話している。「どちらでもいい」と利用者が言っても「でもどっちが好き？」と職員が聞き返している。笑顔で利用者が応えているのは、馴染んだ言葉の雰囲気も大きな役割を果たしている。思いや意向を把握するには、本人が選択する支援が必要で、選択するためには安心した環境が求められる。利用者がより多く安心するために、親しみやすい言葉遣いで接しているケアは評価できる。	職員の定着率の良い事業所であるので、利用者理解はどの職員もできている。それはミーティングでの情報交換の積み重ねであるが、新しい職員が入って来た場合と、利用者の状況を理解する資料はアセスメント記録だけである。今まで知り得た利用者の状況は介護記録に記載しているが、古い記録は確認することが難しい。従って口頭で伝えて行く他に方法がなく、時間も要するので、利用者の理解を深めるためにも記録としてうまく整理していくことを望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービスの開始に先立って、利用者の家族環境、生活歴、職歴、他施設の利用歴などの情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員会議やミーティング、日々の申送りにより、ひとり一人の状況の把握に努めるとともに、協議した結果をケアプランに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人にとってより良い暮らしの実現のため、本人、家族、職員、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、その人の抱える課題の解決に向けた適切な介護計画を作成している。	
			(外部評価) 介護計画は利用者毎の担当職員がプランの素案を作り、全職員で話し合われている。また利用者全員を全職員が理解するため、担当は3か月毎に交代をしている。ミーティングでまとまった計画は、ケアマネが介護計画の書類にしている。モニタリングは毎月介護計画に沿って評価をし、介護計画の見直しに役立っている。	現在、ケアマネは非常勤で週一回の勤務であるため、利用者の状態を把握するには担当職員との間に開きがあるように感じる。その差異が介護計画作成に微妙な違いを生んでいる。そこで介護計画の作成にあたっては、担当職員の関わる範囲をもう少し多くしてみてはどうだろうか。さらに書類作成には専門性が不可欠で、ケアマネの専門的知識は必要であるため、そのバランスを含め一考願いたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の利用者毎に、日々の出来事をできるだけ詳細に記録し、ケアの実践とその結果、工夫したこと等の情報を職員間で共有し、より良い支援となるよう随時介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状態の変化、家族の事情などそれぞれのニーズに応じ、前例や固定観念に捉われないよう、臨機応変なサービスや支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の自治会活動や祭礼などに参加し、四季折々の自然環境や、季節毎の催しなど、他者と触れ合う機会を持ちながら、豊かな暮らしができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 第一には本人及び家族の希望を尊重しており、契約した嘱 託医との緊密な協力関係のもと、安心できる体制を整えて いる。さらには必要に応じて総合病院との連携もとりなが ら、常に適切な医療が受けられるよう支援している。 (外部評価) 多くの利用者が協力病院がかかりつけ医である。事業所が 山間にあるため往診が難しいため、受診介助を主に職員が 行っている。家族等にとっては嬉しいサービスの一つに なっている。また「何かあっては大変ですから」と救急車 への連絡体制は万全で、利用者の安心感に繋がっている。 単独の事業所だけに他の機関との連携は堅固で、気を配っ ていることが分かる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員が、日々の支援の中でとらえた気づきや疑問など を、随時看護職員に伝え、利用者が適切な受診や看護を受 けることができるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 常に医療機関との連携をとることに努め、利用者が診療を 受けたり、入院が必要が生じた場合に、適切な治療により 速やかに施設に帰ることができるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 日常の利用者家族との交流に加えて、家族総会や運営推進 会議等を通じ、体調急変時の対応や状態が重度化した場合 の施設の方針について逐一説明し納得してもらっており、 事業所でできることと困難なことについて理解してもら うよう努めている。 (外部評価) 管理者は、この事業所で生活するには医療行為が必要ない こと、口から食事が取れることの2つの要件を、入居時に 利用者や家族等に話しをしている。なるべくここで生活が したいと言うのが多くの利用者の思いであるが、事業所で できることと難しいことを管理者は識別している。難しい ことは難しいと家族等にはっきり伝えており、介護職とし ての専門性の高さを感じる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急や防火・防災訓練を開催し、全ての職員が、万が一の事態での応急処置や初期対応に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議や自治会との交流を通じて、地域の消防団などとの連携を図り、万一の際の避難の手順や地域との協力体制について、全職員に対し周知徹底している。 (外部評価) 災害時の避難訓練は、事業所の年間スケジュールに組み込まれ、年2回、消防署職員から直接の指導を受けている。夜間職員一人で利用者全員の避難を誘導するには、やはり不安があるので、訓練にはつつい熱が入ると職員は言う。事業所の廊下にヘルメットが掛かっており、普段から避難に注意していることが分かる。平屋で玄関以外にもリビングや廊下の突き当たり等複数の避難路を設け、安心感の高い事業所である。	避難訓練が終わった後、消防署職員と反省会を兼ねて利用者のお茶会を催してはどうだろうか。目的は消防署職員に利用者理解を深めてもらうことにある。訓練では職員が利用者を誘導するため、同じ現場に居ながらも消防署職員は利用者とは話す機会が少ない。しかし有事の際には直接利用者に関わり、より安全に誘導するには利用者を知ることは重要である。また、利用者を通して認知症理解も深まると思われるので、事業所としての取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者ひとり一人の尊厳に配慮し、人格とプライバシーを常に尊重している。声掛けや誘導の際の言葉遣いでも親しさの中に尊敬の念を込めるよう心掛けている。 (外部評価) 食事の時に不機嫌な利用者がいた。食べ始めるまで時間を要したが、ゆっくりした口調でそれに職員が寄り添っていた。それが認知症の介護とえばそれまでだが、その丁寧さには頭が下がり、普段からのこうした関わりの基本は、利用者一人ひとりの尊重であると感じた。言葉にするのは容易であるが、実行には忍耐と優しさが必要であり、それを再確認した場面であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が自主的に意志を表現し行動できるよう、可能な限り自己決定を優先できるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者ひとり一人の能力や生活リズムを優先し、それぞれの希望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者全員が女性であり、要望があればその人らしいおしゃれや身だしなみができるよう配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 介護度の進行とともに、利用者が準備を行うことが困難になりつつあるが、個々の能力に応じた、食器拭きや片づけ等、利用者と職員が可能な限り協力している。	
			(外部評価) 利用者の重度化から準備や後片付けができる人は少なくなっているものの、訪問日は一人の利用者がずっと立ち後片付けを始める姿を見ることができた。その自然な動きで、後片付けは彼女の日常に組み込まれていることが分かる。食事中、職員は介助しながら他の利用者にも目配せ、声かけと忙しくしているが、口調は穏やかであった。食事が利用者にとって楽しい時間であるように関わっていることが理解できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 地元の農家からの差し入れなどもあって、旬の新鮮な野菜を中心とする、栄養バランスに配慮した食事を提供している。10時と3時にはおやつに加えて利用者の嗜好に沿ったコーヒーや紅茶、日本茶による水分の補給に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアはもちろん、個々の利用者毎の口腔の状態に留意し、必要に応じて歯科医の受診や往診を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の意志を伝えることが困難な利用者、特に夜間は排泄リズムに応じて声掛けしてトイレに誘導している。また、朝食後にはトイレに座ることで排泄を促すようにしている。	
			(外部評価) 職員は昼間はトイレで排泄するよう支援しているが、夜間は利用者によっては睡眠を優先するために紙おむつやパットも活用している。それでも起きて来てトイレに行こうとする人には、「夜間何回も行くので、ゆっくり寝るために工夫をしても、やっぱり行きたいという要望は叶えたい」と職員が寄り添って支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜中心の食事と、各種運動の実施により利用者に応じた対応を取っている。それでも便秘になる場合は「マグミット錠」などを嘱託医の処方のもとに服用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者本人の意思と判断のもと、身体の状態を鑑みて入浴を支援している。苦手な利用者に対しては、その必要性和効果を根気よく説明し、納得の上入浴を促している。	
			(外部評価) 入浴は2日に1回を基本にしているが、天候や本人の体調等にも配慮し臨機応変に対応している。職員は、入浴は体を清潔に保つ以外に、皮膚等の専門的な観察と利用者へのリラックス時間の提供でも考えている。特に利用者との雑談時間は大切に考えており、「つい長くなることもあります」と職員は笑う。利用者が愚痴を言うのも大事と、心身ともにリフレッシュできる入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居前の個々の生活リズムは尊重するが、健康で安心な暮らしのためには改めるべきことは改め、適切な活動と休息・睡眠が必要であることを念頭に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの利用者が服用している薬の効能や副作用、用法について、処方箋の内容を把握し、疑義が生じた場合には医療機関に指示を仰いでいる。また、情報の収集に努めて利用者毎の状態の変化に対応できるよう図っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の個性や嗜好を把握し、その人の能力に合った役割を持ってもらい、生活の上での喜びや達成感を得ていただいている。趣味や嗜好に沿った気分転換についてもそれぞれの個性を尊重している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 酷暑や厳寒、荒天時を除いて外出の機会を設けるよう努めている。車酔いやトイレの不安を訴える利用者もおられるため、近所への散歩や日光浴となる場合もあり、それぞれの意向を踏まえた支援をしている。 (外部評価) 事業所には大型のワゴン車があり、それで年に数回遠出をしている。しかし、回数が限られているので、普段は庭に出て外気浴をしている。気候が良いと近くの集落まで散歩しているが、利用者が山道に入ってしまうと迷う危険性があり、職員の見守りが重要になっている。また夏場でも日暮れが早いので、空の様子を見ながら外出するなど、外出一つも他の事業所にはない苦労がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者本人で管理が不可能である場合を除いて、本人の意思を尊重しており、買い物など楽しみにつながるような支援を心掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の家族や親類、友人など、本人の希望に応じて電話の取次ぎ、手紙のやり取りなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) すべての共用の空間において、機能的であることに優先して衛生的であることを優先し、住環境に配慮している。また、掲示物等にも季節感を感じられるものを採り入れ、心地よく過ごすことができるよう演出している。</p> <p>(外部評価) 事業所は、リビングとダイニングとが分れ、くつろぎと食事スペースを使い分けている。廊下との間にも仕切りがなく、視覚的に広がりがある造りである。リビングの大きな窓と廊下の突き当たりの窓が風の通り道になっており、建物全体の通気が良い。2つのユニットを真っ直ぐ貫いている長い廊下は、利用者の機能訓練にも活かされている。別ユニットの利用者が頭を下げながら歩いており、社交の場にもなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 会話好きで社交的な利用者、静かに他者の話を聞く利用者、それぞれの個性を生かすことができるように、食堂、和室、居室にと、利用者が思い思いに自由に行動できるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 備え付けのダンス以外は自由に配置を変えることが可能で、仏壇や写真、思い出の品などを持ち込んでもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室は利用者によって家具等持ち込む物に違いはあるが、どの部屋も自分の場所という居心地の良さが感じられる。ベッドと整理ダンスが備え付けなので、身の回り品だけを持ってきている利用者の部屋も寂しさはない。ほとんどの利用者が寝るとき以外は部屋に居らず、事業所全体が自分の家のように使っている状態は、自宅でくつろいでいる雰囲気である。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) それぞれの利用者の能力に応じて、それを把握し、本人にとって適切な、体操や娯楽、身体機能の維持のための運動等を通じて、安全でできるだけ自立した生活が送れることができるよう工夫しながら支援している。</p>	